

がん化学療法指示書

登録番号 373

作成日 2023/3/22

レジメン名	CBDCA+nab-PTX+デュルバルマブ+トレメリムマブ療法
診療科・対象疾患	(呼吸)切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌
投与間隔	3週毎
投与サイクル数	4コース

Chemo Navi

薬剤名	成分名	投与量	投与日
イジユド	トレメリムマブ	75mg/body	Day1
イミフィンジ	デュルバルマブ	1500mg/body	Day1
アブラキサン	アルブミン懸濁型パクリタキセル	100mg/m <sup>2</sup>	Day1,8,15
カルボプラチン	カルボプラチン	AUC 5(MAX6)	Day1

治療内容	滴下順	抗癌剤	薬剤(成分名)	投与量	時間	投与方法	投与スケジュール							
							day1	...	day8	...	day15	...	day21	
注射	Rp1		生理食塩液	100mL	任意	ルート確保・フラッシュ用	●							
	Rp2	●	イジユド(トレメリムマブ)	75mg/body	60分	点滴静注メイン	●							
			生理食塩液	100mL										
	Rp3		生理食塩液	50mL	15分	経過観察用	●							
	Rp4	●	イミフィンジ(デュルバルマブ)	1500mg	60分	点滴静注メイン	●							
			生理食塩液	250mL										
	Rp5		生理食塩液	250mL	120分※1	点滴静注メイン	●							
	Rp.6		生理食塩液	100mL	任意	側管ルート確保・フラッシュ用 フィルターの下側の三方活栓に接続	●							
	Rp7		パロノセトロン注(0.75mg) デキサート注(6.6mg)	1袋 1瓶	15分	点滴静注側管	●							
	Rp8	●	アブラキサン(アルブミン懸濁型パクリタキセル)	100mg/m <sup>2</sup>	30分	点滴静注側管※2	●							
		生理食塩液	100mL		フィルターの下側の三方活栓から投与する									
		生理食塩液は溶解に必要な量のみ使用する												
Rp.9		生理食塩液	50mL	10分	点滴静注側管	●								
Rp.10	●	カルボプラチン	AUC 5(MAX6)	60分	点滴静注側管	●								
		生理食塩液	250mL											
内服	Rp1		生理食塩液	100mL	任意	ルート確保・フラッシュ用		●		●				
	Rp2		生理食塩液	100mL	15分	点滴静注メイン		●		●				
			デキサート注(6.6mg)	1瓶										
	Rp3	●	アブラキサン(アルブミン懸濁型パクリタキセル)	100mg/m <sup>2</sup>	30分	点滴静注メイン		●		●				
		生理食塩液	100mL											
		生理食塩液は溶解に必要な量のみ使用する												
その他必要薬剤	・イメド(アプレビタント)125mg:1cap分1 ルートキープ時に内服(day1) ・イメド(アプレビタント)80mg:1cap分1 朝食後に内服(day2,3)													
総投与時間	Day1:(初回)4時間30分、Day8,15:1時間													
血管外漏出リスク	イジユド(トレメリムマブ):非壊死性抗がん剤 イミフィンジ(デュルバルマブ):非壊死性抗がん剤 アブラキサン(アルブミン懸濁型パクリタキセル):壊死性抗がん剤 カルボプラチン:炎症性抗がん剤													
投与時の注意事項	アブラキサン(アルブミン懸濁型パクリタキセル)は特定生物由来製剤(人血清アルブミン含有)であり特定生物由来製剤使用同意書が必要 アブラキサン(アルブミン懸濁型パクリタキセル)はフィルター付きルートが使用不可 イミフィンジ(デュルバルマブ)、イジユド(トレメリムマブ)はフィルター付きルートが必要 メインルートからイジユド(トレメリムマブ)、イミフィンジ(デュルバルマブ)をフィルター付きルートで投与 ※1:Rp.5の生理食塩液250mLは、2時間の速度でメインルートから投与を開始し、Rp.6の生理食塩液100mLをフィルターより下側の側管ルートから(フィルターを通さない)ルート確保用として接続する ※2:Rp.8のアブラキサン(アルブミン懸濁型パクリタキセル)は側管ルートから投与 メインルートの生理食塩液250mLと側管ルートのアブラキサンは同時に投与する。続けて、側管ルートのカルボプラチンも、メインルートの生理食塩液250mLと同時に投与を行い終了する													
備考欄	Infusion Reaction Grade2の場合、イミフィンジ(デュルバルマブ)あるいはイジユド(トレメリムマブ)の投与を直ちに中止する。1時間以内に回復する場合には、投与速度を50%減速して再開する。 Infusion Reaction経験例では、次回より投与30分前に以下薬剤で前処置を行う。 レスタミンコーワ10mg 5錠 アセトアミノフェン300mg 2錠 4コース目まで3週間間隔。維持療法移行後は4週間間隔。 4コース目までイミフィンジ(デュルバルマブ)+イジユド(トレメリムマブ)+アブラキサン(アルブミン懸濁型パクリタキセル)+カルボプラチン。その後、イミフィンジ(デュルバルマブ)で維持療法。維持療法2回目投与時のみイジユド(トレメリムマブ)も投与。 イジユド(トレメリムマブ)の投与は維持療法を含めて合計5回まで。													